

① テーマ

強度行動障害のある人への支援

② 地域の現状と課題

「暮らし部会」では、令和6年度は強度行動障害のある方の支援に絞って検討を行った。8月に実施したアンケートにおいて、強度行動障害のある方の支援の支援難易度に高さに苦慮する状況や、それを支える人材の不足が障害福祉サービス事業所、相談支援事業所の両者からも明らかになった。また十分に支えるだけの社会資源の不足も深刻であり、サービスについても限定的な提供にとどまっている状況も指摘されている。

この先においても障害福祉サービス事業所の人手不足、人材不足はますます深刻になることが予測され、サービスの創出も困難となる。それは強度行動障害のある方への支援だけでなく、障害福祉分野、介護分野といった「福祉業界全般」が向き合うべき課題である。

限られた人材と資源、財源を有効に活用し、持続可能な状態としていくために、どのような方策が必要であるか、また15年前、20年前のように必要なサービスがすぐに開所でき、人材が潤沢に集まる時代ではないという状況を関係者は十分に踏まえて、取り組みを進めていく必要がある。

こうした点を「暮らし部会」では意識をして検討を行った。

③ 検討内容（必要な取組の方向性）

令和6年度は強度行動障害のある方の実態の把握として市内事業所及び相談支援事業所にアンケート調査を行なった。その中で明らかになったこととしては「人材養成」「人材確保」であり、その結果を踏まえて強度行動障害の支援を行っている障害福祉サービス事業所（3事業所）から現在の支援の実態についての報告を行っていただいた。

こうした検討を経て、今後、上越市において必要と思われる強度行動障害のある方の支援について「運用面」「財政面」「人材育成」に分類し、提言を行いたい。

運用面

～重度訪問介護の活用～

- ① 支給決定の柔軟な取り扱い（一定のルールは必要であり要検討）
- ② 強度行動障害のある方への長時間のマンツーマン支援としての重度訪問介護の有効性を関係者に広く普及

財政面

～行動障害特性に配慮した備品購入、改修費の補助～

行動障害のある方を受け入れるにあたっての特殊な設備や施設改修、必要な備品などについて市単独補助等の創設。

人材育成

～コンサルテーションとネットワーク～

- ① コンサルテーションの活用
- ② 強度行動障害に関するネットワーク組織の設立

④ 来年度の取組方針

【重度訪問介護の活用】

強度行動障害のある方に対する重度訪問介護サービスの提供が柔軟に行われ、使い勝手の良いサービスにしていくとともに、これまであまり着目されてこなかった強度行動障害のある方への長時間のマンツーマン支援としての重度訪問介護の有効性を関係者に広く普及していく。

【行動障害特性に配慮した備品購入、改修費の補助】

上越市独自に強度行動障害のある方のサポートを充実させるためのグッズや備品・設備、施設改修等に対する補助事業の創設を検討するとともに、既存の改修費用補助について強度行動障害のある方を受入れる際の障害特性に配慮した改修等についても活用可能な旨を明確化し、関係者に周知する。

【コンサルテーションとネットワーク】

コンサルテーションの充実を行うとともに、上越地域において中核的な人材を把握し、計画的に養成を行う。併せて強度行動障害支援にまつわる支援者等のネットワーク組織を設立し、定期的な勉強会や障害特性理解のための研修や困難ケースの事例検討、モチベーションアップのためのメンバーシップの醸成やメーリングリスト等を活用した情報交換等を行うネットワーク組織の設立について検討する。

⑤ その他（開催経過）

月 日	内 容
7月11日（木）	・アンケートの実施について
8月28日（水）	・アンケート結果の共有
10月24日（木）	・強度行動障害のある方を支援する事業所によるプレゼンテーション
11月20日（水）	とりまとめ①と次年度テーマに向けてのフリートーク
12月17日（火）	とりまとめ②